

こくさい新聞

小学5・6年生

下関市総合政策部 国際課

電話: 083 (231) 9653

メール: sskokusa@city.shimonoseki.yanaguchi.jp

下関の中学生8名が米国を訪問!

8月3日から中学生の代表8名が国際しんぜん大使として姉妹都市、米国カリフォルニア州ピッツバーク市を訪問。市役所・警察署をはじめ、現地の様々な施設を視察し、5泊のホームステイを体験しました。

中学生がアメリカ・ピッツバークでホームステイ

下関市は、世界で活躍できる人材育成のため、中学生を毎年ピッツバーク市に派遣しています。団員は本場の英語を体験し、ホームステイや現地の方々との交流を通じて、米国の文化や生活習慣を直接、肌で感じてきました。

出発前に事前研修!

団員は、6月末から出発前まで4回の事前研修を通じて、現地で調べる各自の課題(学校制度、銃や戦争・自由についての考え方、文化やスーパーマーケット、料理等)を整理し、質問を英語でまとめるとともに、ホームステイの注意点なども学びました。

いざ、ピッツバークへ!

新下関駅で学校の先生方や家族に見送られた後、福岡空港から韓国・仁川(インチョン)空港へ。仁川空港で飛行機を乗り継いだ一行は日付変更線を越え、約十時間です。到着後、ピッツバーク市役所を訪問し、市役所・警察署をはじめ、現地の様々な施設を視察し、5泊のホームステイを体験しました。

緊張しながら初めての入国審査を無事に終えた後、在サンフランシスコ日本総領事館を訪れ、現地の情報収集や日本人の保護、旅券・査証の交付など総領事館の大事な役割を学びました。総領事さんから「姉妹都市交流のような顔の見える交流は国同士の交流の基礎を成す重要な交流なので、積極的に支援したい」との発言があり印象的でした。



熱心にメモを取る団員たち

領事館の方々との記念さつえい!

ピッツバークってどんなところ?



ピッツバーク市はアメリカ西海岸、カリフォルニア州サンフランシスコの東、約60kmに位置します。

- 人口: 8万7千人 (下関市は約28万人)
面積: 40km² (下関市は715km²)
姉妹都市締結 1998年12月18日

姉妹都市締結1周年記念として贈った「ふくの像」のある市マリナー近くの公園で記念さつえい



市内各所を訪問・視察!

翌朝、団員はまず市役所を訪問し、ピッツバークの6つの姉妹都市や市議会について説明を受けました。

市警察署では、防犯カメラの映像や留置場、パトカーなどを見学したほか、本物の銃に触れる体験もしました。

その後、昨年建て替えられた新しい高校を訪れ、様々なタイプの教室や図書館、バスケットボールのコートが3面取れる体育館やカフェテリア、広大な中庭などを見学し充実した施設と広さにびっくりしました。

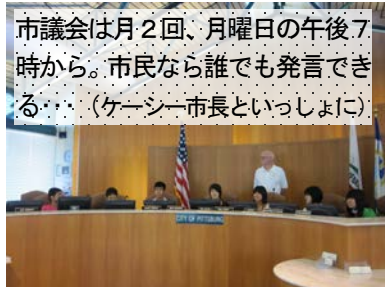


広々とした校舎にビックリ!!

また、歴史博物館で水産業、炭鉱、鉄鋼と続く市の歴史や市名の変遷、アメリカの文化などについて学びました。



恒例! 団員緊急逮捕!?



市議会は月2回、月曜日の午後7時から。市民なら誰でも発言できる... (ケーシー市長といっしょに)

アルカトラス島へ!

翌日は、アルカトラス島のクルーズ&ツアーに出かけました。サンフランシスコ湾に浮かぶ小さなこの島には、1963年まで、海流の影響で回りの水温が年中低いため、脱獄不可能と言われた刑務所が置かれていました。ヘッドホンの日本語音声案内に従って各所を巡り、刑務所の歴史や当時の施設の様子などについて学びました。賑やかなサンフランシスコの街からこんなに近い場所に凶悪犯たちが収監されていたことにおどろきました。船上や島からサンフランシスコの美しい眺めも楽しむことができました。



刑務所の中は少し不気味な雰囲気...



中庭からの景色は絶景!!

ホストファミリーとの休日

最後の2日間は観光や買い物、遊園地、プールなど、団員はホストファミリーと一緒に楽しく過ごしました。

お礼に、そうめんやカレー、ちらし寿司を振舞った団員や、特技の習字やお茶、けん玉を披露した団員も...。それぞれとても喜んでもらえ、国際親善大使の役割を立派に務めました。



ピッツバークの5日間は、私たちの宝物



現地での楽しい日々は、あっという間に過ぎてしまいました。団員たちはホストファミリーとハグをしてお別れをしました。

国際人として

団員たちは一週間の派遣研修を終え、ピッツバークの人々との触れ合いを通して相手を思いやることや感謝する気持ちの大切さを学び、国際人として大きな一歩を踏み出しました。一回りも二回りも成長して下関に帰ってきた団員たちの今後の活躍が楽しみです。



ありがとう、ピッツバークの皆さん!

団員の感想です...

- Tさん 日本とアメリカの違いを目で見て体験することができ、とても良いしげきになった!
Aさん ホストファミリーにひろうした習字をかざる額をいっしょに選んだ。「かざりたい」と言われた時はとてもうれしかった!
Kさん アメリカで過ごした5日間、たくさんの体験・おどろいたこと・楽しかったこと、ホストファミリーのお父さんとお母さん。全て私の一生の宝物!絶対に忘れません!
Wさん ホストマザーが作ってくれたフレンチトーストは私の大好物になった。日本に帰ってからも作ってみたいけど味が違った。いつかまた会える日があれば教えてもらいたい!
I君 言葉がうまく聞き取れないと、ゆっくり話してくれたり、紙に英文を書いてくれたりして、ホームステイの良さを知ることができた。
M君 最初はホストブラザーとうまくコミュニケーションが取れなかったけどだんだんきずなが深まり、お別れの時「泊まってくれてありがとう」と言って涙を流してくれた。あの言葉・涙は一生忘れない!
T君 別れる日の朝、泣きながら手紙をくれた。「私の新しい友だち」「私たちの新しい家族」と書いてあり、とてもうれしかった。ホストファミリーの新しい家族になれた気がした。
M君 一番印象に残っているのは、ピッツバークやサンフランシスコの空の色。雲一つなく吸い込まれそうな空の色でとてもきれいだった。過ごしやす環境の中、充実した研修になり、とても楽しかった!

中学生になったらあなたも挑戦してみよう!